

弘 前

岩木健診 21年目スタート

約3千項目に及ぶ弘前市民の健診データを集めて健康づくりに役立てる「岩木健康増進プロジェクト健診

(岩木健診)」が5月31日、同市にある中央公民館岩木館などで始まった。今年で21年目を迎える健診で、血圧や口腔内の状態、運動能力などを調べる。6月9日まで。

岩木健診は弘前大学と市、県総合健診センターが主催。計約1300人が4～5時間かけて58のブースを回り、内科診察や脚力検査などを受ける。昨年度から同市岩木地区以外の市民も参加している。

NECと第一三共のブースでは、専用のカメラで受診者の顔を撮り、表情と健康の関係を調査。花王はタブレット端末を使い、内臓脂肪を調べていた。

弘前大学院医学研究科付属健康未来イノベーションセンターの三上達也センター長は「これまでの健診で、リング農家は加齢に伴い、肩が上がりにくくなる『肩腱板損傷』になりやすいことが分かっている。分析技術は年々進歩しているので、今後とも結果を市民に還元していきたい」と語った。

(工藤貴光)

約3千項目の健診データを集める岩木健診の会場

